

## 2019 年度 病院医学教育研究助成成果報告書

報告書提出年月日	2020 年 4 月 8 日
研究・研修課題名	院内RRS(Rapid Response System)構築に向けての研修会の開催
研究・研修組織名(所属)	RRS 小山智美
研究・研修責任者名(所属)	小山智美(看護部)
研究・研修実施者名(所属)	比良英司、室野井智博、(Acute Care Surgery講座) 谷崎明子、神谷千恵、原由香、石飛和歌子(看護部)

成果区分	<input type="checkbox"/> 学会発表 <input type="checkbox"/> 論文掲載 <input type="checkbox"/> 資格取得 <input type="checkbox"/> 認定更新 <input type="checkbox"/> 試験合格 <input type="checkbox"/> 単位取得 <input checked="" type="checkbox"/> その他の成果(研修参加)
該当者名(所属)	小山智美、小村宏美、坂根久美子、山崎省吾(看護部)
学会名(会期・場所)、認定名等	患者急変対応 KIDUKI プロバイダー/ファシリテーターコース 第 47 回日本集中治療医学会学術集会(中止)
演題名・認証交付元等	
取得日・認定期間等	
診療報酬加算の有無	<input type="checkbox"/> 加算有( ) <input checked="" type="checkbox"/> 加算無

## 目的及び方法、成果の内容

## ① 目的

院内急変事象は患者予後に関わる因子の一つとして考えられ、病院をあげての対策の必要性が問われている。本院でも今年度 4 月より全職員に向け、システムの周知を行い、システムが開始となっている。現在、医療安全、救急・集中治療に関わる看護師を中心に活動を行っているが、システムが起動にのるまでは課題が残っている。RRS の運用を充実化させるために看護師の知識・技術の向上が必要である。そのため、研修に参加し、看護師の知識・技術の向上を図り、院内研修の参考にすることを目的とした。

## ② 方法

院内 RRS 研修会の開催にむけ、実際に RRS を稼働し実践している病院を訪問し、情報収集・意見交換を通して、どうすればシステムが起動にのるか、研修を行う(2日間)。また最新の知見を得られるよう研究会および学会に参加する。

E ラーニングやシミュレーション教育を含んだ研修会を院内で開催する。また国内に RRS を導入し、立ち上げや活動を支援する医師を招聘し、院内講演会を実施する。

## ② 成果

院内 RRS 研修会として、院内へ外部より講師を招き職員全体を対象とした講演会を行うことができた。また、看護師向けのシミュレーション研修として、院外への研修へ参加し、看護師の知識・向上を図り、院内研修の準備を進めた。今年度は、感染対策のため、シミュレーション研修を実施することはできなかったが、来年度へ延期し時期をみて開催予定である。全職員に向けシステム周知を行うことで、RRS を少しずつ起動に載せることができた。今後も継続して活動を行い院内での定着を目指し、院内全体の研修の実施などを行う必要がある。